

余暇のひととき

文化協会より

俳句

△萌の会▽

うつつとは思へぬ月のさくらかな
髪上げて袴胸高卒業し
しゃぼん玉風と戯れ風に消え
境内の苔うるほして春の雨
春風に押されて歩く杖の母
海光のまぶしと落つる椿かな

今井 久美子
今城 妙子
櫻井 香
櫻井 良子
宮崎 道子
森田 たみ

△柿の実句会▽

鯉の餌にすばやく来たり春の鴨
チューリップ嬉しき時に出る涙
青き踏む遠き嶺に雲一つなし
洪滞の高速道路遠霞
春興やお香をたきでお茶たてて
玄関に手摺つけたる花ぐもり
立像の大師に春の嵐かな

上甲 里美
友岡 文子
松森 敬子
宮本 玉江
山口 陽子
山本 敦子
平岡 千代子

川柳

△吉田川柳会▽

一人言話しかけてる墓参り
回り道無駄でなかつた広い視野
飢える子の声聞こえそう世界地図
冗談が言える余裕の欲しい日々
どの風にも添える軸足スクワット
ダイエット明日を信じて靴を履く

赤松 委沙子
加賀山 一興
金子 すすむ
日野 厚生
薬師寺 絹子
米子 達雄

短歌

△水沼短歌会▽

怒るのは血圧薬飲んでから
うんうんと親に言えない話聞く
節分に悩み投げ捨て福を呼ぶ
この歳になつてみればと親は言い
テールが手狭な頃は笑い声
子や孫へ託す絆は世の平和
喜怒哀楽季節に添って生きてます
楽譜から少し離れて味を出す
輪転機ぐるぐる回し景気読む
定石を知って奇策に動かない
好景気追って日本の排気ガス
近況の便り笑顔も持って来る

荒木 孝
岩根 長江
宇都宮 忍
大西 直子
加藤 桂子
河野 秀夫
中川 まさ子
日高 伸子
松本 圭市
宮川 柳酔
森 ひとし
結城 とときえ

△川柳鹿の子吟社▽

逝きし母に伝へたかりし言の葉の双手に余るわが胸の裡
塩麴を頂き好きになりし味友よりのレシピに日を掛け作る
門々の声聞え来て更けゆけば鬼の声聞ゆる節分の夜
紅させる野路の日影のやぶ椿一輪二輪の花便よりくる
JAの新聞に載りし菓子作り仲間意識に会話もはずむ
陽だまりの十本あまりのふきのとう佃煮にして小鉢賑わう
白鷺の一羽飛びきて冬枯れの川辺の景を絵画となせり
兄弟三人助け合ひ生きよと遺したる健やかなりし日の夫の筆跡
庭の椿山茶花木蓮紫木蓮咲きつぎてわれもはなやぐ

谷 静雄
生田 八壽子
井関 恭子
黒田 登代子
芝 征世
竹城 美智代
土居 シゲ子
毛利 ユリ子
山田 田鶴